



YMCA 大阪青年

3

2023年3月1日発行
1916年6月1日創刊
発行 / 小川 健一郎
編集 / 大阪 YMCA 広報室
〒550-0001
大阪市西区土佐堀 1-5-6
Tel 06-6441-0894
Fax 06-6445-0297
URL: <http://www.osakaymca.or.jp>



共生社会、そして日本語教育

2022年は、世界各地で移民や難民の人権が脅かされるニュースを多く目にしました。形は異なるにせよ、日本でも外国にルーツをもつ人々の人権が脅かされていることを、福祉、教育などのデータが示しています。

例えば2020年、外国籍世帯の生活保護受給世帯の増加率は、日本国籍世帯を大きく上回りました。国によるコロナ禍の生活資金貸付事業では、外国人の申請者が全体の約半数となったことが複数の新聞により報道されるなど、コロナ禍を通じて外国にルーツをもつ人々が社会的な弱者であることが浮き彫りになりました。また、日本語指導が必要な高校生等は全高校生に比べて大学等の進学率が低く、中退率や、非正規での雇用率ははるかに高いことが、文部科学省により明らかにされています。そのほか、技能実習生の劣悪な労働環境など、外国にルーツをもつ人々が多くの困難を抱えるニュースも少なくありません。

私は、社会福祉の支援活動や調査を通じて、大事なことを雇用主から伝えられないために選択肢が1つしかないと感じざるを得ない外国

人労働者、夫の暴力から逃げても避難先の情報が理解できない、あるいは制度情報を理解できないために不利な離婚をせざるをえなかった外国人女性、日本語理解の問題により自分の道を見出せない子どもたちの姿を多く目にしました。言葉は、単に日常生活での困り感の問題ではなく、外国にルーツをもつ人々が人権侵害から自分を守るための武器であり、自分にとって必要かつ得たい情報を理解し、自分の意思で選び取る、という自分らしく生きるための根幹をなすものであることを痛感します。

日本語教育・支援に携わる方々は「この支援は、この人にとってどれくらい役に立ったのだろうか」と感じることもあるかもしれません。背景には、支援の成果が一定期間で明確にみえるとは限らない、ということもあるかと思っています。しかし、日本語教育は個人が人権を保障され、自分らしく生きることを支えるために不可欠です。そして、個人の人権を保障する社会となることが、宗教や信条、国籍や文化などの違いを超えて人々が共に生きる社会

につながります。その意味において、日本語教育は人権を保障する社会となるうえでとても重要なのです。その役割を長きにわたりけん引している大阪YMCA日本語教育センターの皆様には、心より敬意と感謝をお伝えしたいと思います。

外国にルーツをもつ人々、多くの福祉、医療、教育関係者、そして日本社会は、大阪YMCA日本語教育センターの皆様をはじめとする、日本語教育実践者に支えられてきました。引き続き、人権を尊重する社会づくりにおける重要な役割を果たし続けていかれることを、強く期待しています。



大阪YMCA日本語教育センター
設立2周年記念セミナー講師
東洋大学 ライフデザイン学部
生活支援学科 教授

みなみの なつこ
南野 奈津子

■大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭、地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人びとと力を合わせ、環境、人権、貧困の課題に取り組み、平和で公正な世界をめざします。

にほんごオンラインステップコース ウクライナ支援

にほんごオンラインステップコースでは2022年11月よりウクライナの学生を2名受け入れ、日本語学習を支援しています。Google Classroomで教材を配信し、50分の授業を週に2回実施、1名はウクライナから、もう1名は避難先のポーランドから受講しています。彼らの生活は未だ危機下にあり、ライフラインの問題も絶えません。停電が続き、時にはオンラインでつながることも難しいことがあります。そのような中でも限られた時間で学ぼうとする姿勢が見られ、「今はまだ日本に行くことは難しいが、オンラインで勉強できることはうれしいです。ビデオ教材やノートはダウンロードしておけば、いつでも見られるし、授業も楽しいです。」と前向きに日本語学習に取り組んでいます。

彼らは近い将来日本に留学し、大学で勉強したいと言っています。そう願う彼らの未来が明るくなるように、学ぶ権利を守るために、これからも日本語学習支援を継続していきます。



ユースの声 vol.7

大阪YMCA学院 総合日本語コース **SEE LI YI**

2022年4月にマレーシアから日本にきました。2021年はずっとコロナ禍で、一年間マレーシアからオンラインで授業を受けていました。諦めようと思う時もありましたが、授業が面白くクラスメイトも優しいので、そのまま諦めずに頑張ってきました。

私が日本に留学しようと思った理由は新しい言語を学びたかったからです。ほとんどのマレーシア人は三カ国語を話せば将来仕事に有利だと思っていて、英語と中国語が話せる私は第3の言語として日本語を学ぼうと考えました。大阪YMCAでは色々なボランティア活動に参加し、様々な人に出会って、視野を広げました。特に学校の面白い先生たちや友達から、日本のことだけではなく、異文化についても教えてもらいました。また、世界中の文化や日本の礼儀などの知識もチューターさんから学びました。

留学してよかったという気持ちを持っています。いつも他人に優しくされてきたので、今後は自分ができる限り、たくさんの人を助けたいと思っています。



前列右から2番目が筆者

YMCAストーリー vol.6

日本語ボランティアチューター **林 小雪**

2022年夏、日本語ボランティアチューターを知り、活動をスタートしました。このボランティアは、週に一回、留学生と日本語を使って会話をする活動です。そこで香港から来た留学生のチェリーさんと出会いました。彼女はとてもフレンドリーで早くから仲を深めることができました。活動中は会話を通して考えさせられることも多くあり、やりがいを感じています。

そんな中でも印象に残っている話は、遠回しな表現についてです。私は今まで遠回しの表現について意識することはなかったのですが、香港人の彼女は「香港では何か断らなくてはならない場合、わからないと濁すのではなくはっきりと断る文化があるよ」と教えてくれ

ました。日本人特有の遠回しな表現には、相手に直接伝えず嫌な印象を与えないという長所があると思っていましたが、遠回しに伝えることで変に相手に期待をさせてしまい、落胆させてしまうこともあると気づき、香港と日本の文化の違いを理解した気がしました。

今では香港と聞くとチェリーさんと話したことが頭に浮かんだり、もっと知りたいと思うようになりました。この気持ちが世界と繋がる大きなきっかけになると感じています。日本語ボランティアチューターには学びや成長もあります。是非他の学生にも参加してみてほしいと思います。



筆者(左側)と留学生

私のSDGs vol.6

大阪YMCA国際専門学校国際ビジネス学科2年生 **松尾 主純**

大阪YMCA国際専門学校国際ビジネス学科のSocial Enterprise(社会起業)の授業で、SDGsについて深く学ぶことができました。私達は、「侵攻の被害を受けているウクライナの街、人々へ希望を」というスローガンを掲げプロジェクトを行ってきました。このプロジェクトは、SDGsの16番「平和と公正をすべての人に」と深く関連しており、「戦争のない平和な世界」を守ることの大切さを改めて痛感しました。寄付するお金を集めるために作成した商品には、エコな素材で作られたものを採用し、12番「つくる責任 つかう責任」と13番「気候変動に具体的な対策を」のSDGsにも対策をしながらプロジェクトを進めました。



子どもの成長とともに ~ユースボランティアリーダー~

ユースボランティアリーダーとは、
「仲間とともに考え、悩みながら体験的に喜びや人を思う気持ちを見つけ、
情熱と責任を持って活動する、そして子どもと一緒に成長していく」。
これらのことに共感し楽しく子どもの成長に関わっていく学生ボランティアをいいます。
ユースボランティアリーダー活動で、豊かな時間を共にしませんか？
新しい出会いを楽しみに待っています！

ユースボランティアリーダー活動 主な年間スケジュール

4月 委嘱式/ユースボランティアリーダー説明会	10月 全大阪リーダー研修会
5月 野外リーダートレーニング ユースボランティアリーダー説明会	11月 週末宿泊キャンプ
6月 海洋リーダートレーニング	12月 スキーリーダートレーニング/ユースリーダーの日の集い ウインターキャンプ
7月 サマーキャンプ	1月 ウィンターキャンプ(スキー、デイ)
8月 サマーキャンプ	2月 週末スキーキャンプ
9月 リーダートレーニング/チャリティーランイベント	3月 活動感謝会/スプリングキャンプ(スキー、デイ)

上記に加え、野外活動、サッカー、バスケットボール、水泳、体育での活動があります。

ユースボランティアリーダー活動にご興味のある方は、各YMCAまでお問い合わせいただくか、以下のアドレスにご連絡ください。

youth-volunteer@osakaymca.org

活躍中のリーダーの声

ユースボランティアリーダー(ソラリーダー) **宮前 瞳**

私がユースボランティアリーダーとして活動する中で1番大切にしていることは、常にポジティブな気持ちで子どもたちと関わることです。主に活動を行っている野外活動では、山や川や浜など様々なフィールドに出向きます。一人ひとりの子どもたちが各フィールドで興味をもつことや感じることは様々です。得意なことや苦手なことは人それぞれで、自分にはできないかもとネガティブに感じることもあります。そんな時、周りのリーダー仲間からのポジティブな声掛けや関わりがあるとネガティブな感情も前向きな気持ちへと変化し、次への1歩へと繋がるのではないかと思います。そのように考えるようになったのは、活動中の経験がきっかけです。グループの話し合いにあまり参加しない子どもがいて、その友だちが話し合いに参加できるように声かけや環境を変えてみたものの、あまり上手くいかず、グループの人間関係の構築に悩んでいた時に、「悩んでるってことはそれだけ真剣に自分のグループのことを考えてるってこと！毎回の積み重ねがその子に繋がると思うから絶対にソラリーダーのしてるアプローチは間違いじゃないよ！」と先輩リーダーに言っていただいたことがありました。次のステップに向かおうと思えるポジティブな体験になりました。そんな声掛けをしてくれる仲間がいるからこそ、ユースボランティアリーダーという場所は今の私にとって、かけがえのない居場所となっています。



リーダーが常にポジティブな気持ちでいることで、ポジティブの輪が広がり、子どもたち同士のつながりが生まれ、成長へとつながるきっかけになると思います。これからの活動でも常にポジティブな気持ちを大切に、子どもたちやリーダーたちとのつながりを強めていきたいです。

是非、皆さんも、ユースボランティア活動を通して仲間や居場所を創りましょう！

昨年の12月23日(金)に行われたユースリーダーの日の集いでは、「思いを交わそう~つながりを強く・チームを強く」というテーマをたて、様々なアクティビティを行いました。一つひとつの活動を実りのあるものにしていくには、一人ひとりの思いや考えを交わし、チーム力を強めていくことがとても大切であると、改めて感じる機会となりました。ユースボランティアリーダーの活動を行う中で、子どもたちやリーダーなど多くの人との出会いがあり、様々な活動を通して素敵なつながりがたくさん生まれていると感じています。今後の活動でもそのつながりを活かし、強くしていきたいと思っています。



新しいYの動き ～VISION150の経過状況～

VISION150委員会

大阪YMCAは、10年後に創立150周年を迎えます。VISION150委員会では、その時に大阪YMCAがどのような姿でありたいか、私たちがありたい姿をVISION150で示すために、現在準備を進めています。約1年半かけて会員や教職員、大阪YMCAに関わる皆さんを対象としたアンケートや座談会を実施し、できる限り皆さんの声を

反映できるよう進めてまいりました。ヒアリングの中では、「あたたかさ」「居場所」「寄り添う」といった言葉が多数あったのが印象的です。コロナ禍で分断や孤立を余儀なくされる世の中だからこそ、より一層YMCAにそうしたことが求められるのかもしれませんが、VISION150委員会では、2023年6月完成を目指して最終作業を進めているところです。VISIONを実現するためにYMCAの活動を発展させ、よりよい社会を皆で創りあげていきましょう。

ご支援に感謝申し上げます

コロナ禍でマスクの着用が必要となり、十分な確保が難しかった2020年8月にグエン・ドク氏(※)から日本ベトナム友好協会大阪府連合会様を通じて大阪YMCA学院の留学生にマスクの寄付をいただきました。本校にはベトナム国籍以外にも多国籍の学生が多数在籍していることを説明したところ、すべての学生へ配布することに快諾いただき、マスクを配布しました。その後も毎週1回、コープこうべ様から本校学生へのパンの寄付をいただき、日本ベトナム友好協会様を通じて運搬いただいております。感謝をもってご報告いたします。



※グエン・ドク氏：ベトナム戦争で散布された枯葉剤の影響とみられる結合双生児として生まれ、日本の医師らの分離手術を受けた。「ベトちゃん・ドクちゃん」として知られている。

140周年記念コラム⑥

創立140周年記念誌作成にあたって

YMC総合研究所 かしもと たかひろ
榎本 高廣

1882年(明治15年)、大阪YMCAが誕生し、先駆者たちの祈りと想いを受けてから140年の歳月を重ねました。この間、内外の厳しい激動の時代にあっても常に人々に寄り添い良き隣人になりたいと願い、多岐にわたる活動を行って参りました。この度の「創立140周年記念誌」は、特に直近10年間の歩みを軌跡として記し、また来るべき150周年に向け希望を繋げていくことを願って編集しました。

この10年の間には、大阪YMCA会則改正を行い「新会員制度」へ移行、更に日本YMCAブランドリバイバル(再生)プロジェクトに取り組み、新たなYMCAブランディングを推し進めました。事業においては、全国初となる公設民営学校運営等の新規の事業にも積極的にチャレンジしてきました。また、震災や豪雨被害など未曾有の大規模自然災害や世界規模での新型コロナウイルス感染症パンデミックの中で、どのように対応しYMCA活動を継続してきたか、これらの記憶を記録として遺すとともに、未来へ想いを継ぐものとなることを願っています。



140周年記念誌表紙

インフォメーション

第347回 早天祈祷会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時(毎月第3金曜日予定)が持たれています。YMCAの様々な場で活動されている方々にお話をいただき、人生の歩みを分かちあう恵みの時としています。

日時：2023年3月17日(金) 7:30～8:15

証し：恵美奈 博光さん

(元大阪YMCA常議員、大阪サウスウイズメンズクラブ会員)

場所：大阪YMCA会館 10階チャペル(大阪市西区土佐堀1-5-6)

※朝食会はありません。

※中止の場合は大阪YMCAホームページ「NEWS 新着情報」でお知らせいたします。



大阪YMCA 統括本部 総務

TEL：06-6441-0894

E-mail：info@osakaymca.org

会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

2023年1月度報告(敬称略)

【新規会員】

櫻井 彩乃
杉村 悠太
横山 愛華

【継続会員】

石倉 篤
伊藤 正尚
岡山 牧人

小川 道雄
奥野 孝昭
加志 勉
神田 尚人
北澤 圭太郎
木下 康生
葛島 経生
正野 忠之
澄川 菊代

竹内 靖子
欽谷 明
長尾 文雄
西野 陽一
萩原 義明
畠平 恵子
藤井 道雄
堀 千春
松田 安紀子

向谷 章
元木 紀世美
山崎 太詩

【継続賛助会員】

株式会社創元社
株式会社田邊空機機械製作所

大阪YMCAのホームページで
その他の情報をご覧ください
ます。

